自分が、祭司として目に見える形での神の祝福を体現できない屈辱感と挫折感。もっともっと、早く、何十年も前にそのことばが来ていたら・・・。しかし、今となっては。

ザカリアは、忠実な祭司、信仰者、奉仕者でありました。しかし、その心には、いつしか失望、傷、こだわりが、自分が敬虔であるという律法順守への固執が信仰のスタイルとなり、それ以外のどんな者の介入も許そうとしない・・・。自分を守るスタイル。こうなったら、だれも入れない。天使でも。しかし、神は、そのようなザカリアの弱さを憐れまれます。ザカリアが受け入れられなかったそのことばを、年老いた、辱めを忍んだ妻エリサベトの心に、そしてその身に宿らせてくださったのです。（ルカ 1:64,67-70）

神学者カール・バルトは、1960年に、スイスのバーゼル刑務所で語ったクリスマス・メッセージの中で次のように祈りました。

あまりにも表面的にしか生きていない者たち、
あまりにも深刻になっている者たち、
あまりにも信仰深くなっている者たち、
あまりにも不信仰な者たちに、
神よ、語りかけてください！

私は、在日大韓基督教会の皆さんと、又この新年説教を読んでくださった皆さんと共に、この祈りを捧げたいと思います。その心をもってクリスマスを祝い、新年を迎えられた皆さんに、この一年、主がどんな形でかかわってこられる場合にも、皆さんがやわらかな心の余白を大切にし、あの星野さんの言う「言葉にも形にもならないものたちと静かに向き合う」静けさと、へりくだりと想像力と勇気をもって過ごしてゆかれますことを願って止みません。

総会奨学生 募集案内

総会神学生として各地方会にて認定され、1年を経過した者が申請できます。募集書類は総会ホームページ http://kccj.jp/archives/2941 からダウンロードしてください。

・募集人員：5名　・支給金額：年額200,000円／一人
・支給期間：1年間（受給者は、継続して新たな申請必要）
・必要書類；
①奨学金申請書　②在学証明書　③成績証明書　④履歴書
⑤堂会長推薦書　⑥総会神学校認定書（各地方会試取部）
⑦各地方会会長承認書
・書類提出先：総会事務局
・締切日：2013年3月10日必着

在日大韓基督教会　総会長・神学考試委員長

KCCJの信条・信仰告白の自覚的継承を求めて (1)

朴憲郁牧師（東京神学大学）

＜はじめに＞

最近、キリスト教出版社である一麦出版社が、宗教改革期から現代まで、ヨーロッパに限らずアジアを含んだ全世界の教会信仰告白を幅広く収録する大規模な企画を立て、それを『改革派教会信仰告白集』（全六巻・別巻一）として昨年２０１２年４月に出版したことは、見事な快挙と言えよう。それはひとえに、さまざまな伝統をもつプロテスタント教会が、互いの信仰告白を知ることによって、ひとつのキリストの体となるためである。

この信仰告白集は、１６～１７世紀の宗教改革時代の改革派教会の信条・信仰告白を網羅して翻訳し収録しつつ、さらに１９～２０世紀の信仰告白や宣言を収録し、そこにアジアの諸教会のものも加えた。その中に、長・監合同教会でありつつ改革派・長老派の伝統をも引き継いだ在日大韓基督教会（KCCJ）が戦後再出発した際に制定した1947年の「信条」が収録された。この信条にはその解題が付されるが、KCCJ所属の牧師であり、現在国内宣教師として東京神学大学の神学教師として派遣され奉職している立場にある筆者（私）は、KCCJ考試委員会を介して一麦出版社から2011年の暮れに、その解題の執筆依頼を受けた。そこで、KCCJの歴史を研究した者として、その役目をお引き受けすることにした。

1947年信条そのものは今回省略し、その「解題」をこのたび福音新聞に掲載させていただいた。その際に、『信仰告白集』には紙幅などの関係上載せられなかった1997年改正「憲法」と2001年10月定期総会で採択された簡易な信仰告白文（使徒信条前文）に関する＜経緯＞を述べた原稿部分も、このたび合わせて掲載させていただくこととなった。教会が拠って立つべき信仰告白を自ら自覚することによって、KCCJが真の信仰に歩み続け、同時に神学的基盤を堅固なものにしていくことを心から願っている。

（次号に継続します。総会のホームページでは、全文をご覧になれます。）

東日本大震災　KCCJ募金口座案内

・銀行：三菱UFJ銀行　・支店：高田馬場支店
・種類：普通預金　・口座：053-1615275
・名義：在日大韓基督教会総会

在日同胞文化の創造と多文化共生社会を目指して2006年4月25日、創立100周年を迎えました。

YMCA

◆東京で一番安く便利な宿泊研修施設（ホテル）：フロントは日・韓・英語を対応、24時間サービス。10名様から2020名様の会議及び宿泊研修(50名様)も可能。
◆スペースワイホール：220席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに最適
◆韓国文化（チャング・カヤグム・舞踊）教室・韓国語講座・各種こどもクラス
◆YMCAアジア語学院（日本語学校）　※会員及び教職者割引有

（税込み）	平　日	休・休前日
シングル	¥6,300	¥5,040
ツイン	¥11,550	¥9,240
トリプル	¥14,490	¥11,592

朝食¥200　カルビクッパ、コムタン、ユッケジャン、韓定食、洋食（全メニューコーヒー付き）

在日本韓国YMCA　http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/
東京韓国ＹＭＣＡアジア青少年センター　〒101-0064　東京都千代田区猿楽町2-5-5　TEL 03-3233-0611 FAX 03-3233-0633
関西韓国ＹＭＣＡアジア青少年センター　〒537-0025　大阪市東成区中道3-14-15　TEL 06-6981-0781 FAX 06-6981-0782

在日大韓基督教会立
在日総会神学校 2013 年度学生募集案内

本校は、一般教育を修了したものが、基本的な神学教育を修め、現代の在日同胞社会の多様性に十分に対応できる福音伝道者の育成を目指しています。

在日宣教に熱い志をもった学生を求めています。

１．募集人員：5 年課程（高卒）、３年課程（大卒）及び２年過程（多神学校４年卒業）　等若干名

２．出願資格：①受洗後、１年以上であること。

②在日大韓基督教会の正会員（但し、他教団出身者は面接要）

③伝道者としての召命感があること。

④高校卒業者および他神学校卒業者

３．出願期間：2012 年 12 月３日（月）～ 2013 年２月 23 日（土）

４．提出書類：

①入学願書（本校所定の用紙）

②志望理由書（400 枚３枚）

③履歴書（本校所定の用紙）

④推薦状（所属教会の牧師または機関代表者）

⑤最終学校の卒業証明書　　⑥最終学校の成績証明書

⑦写真２枚（３×４cm）

５．試験：

①試験日時：2013 年２月 25 日（月）午後１時

②試験会場：在日総会神学校

（東京都足立区西新井本町４－５－１　TEL 03 － 3899 － 9861）

③試験科目：聖書、英語、面接

④受験料：10,000 円

⑤合格発表：2013 年２月 25 日（月）当日通知

６．特典：①卒業後、伝道師考試を経て、在日大韓基督教会の伝道師として二年間訓練され、牧師考試の資格が与えられる。

②学費が安い。年間の授業料は 15 万円

③総会奨学金の他、各種の奨学金の恩恵がある。

④寄宿舎が完備されている。（毎月約２万円）

⑤本国での語学研修制度や宣教協約を結んでいる海外教団の神学校へ留学する機会がある。

問い合わせ：教務　韓聖炫牧師
TEL 03-3890-3365　携帯 080-3355-3890

東日本大震災救済献金の再要請

第５１回総会期第三回常任委員会（2012.9.18）は、2013 年３月 10 日（日）を３．１１主日とし、東日本大震災救済献金を総会内の諸教会・伝道所に募ることにいたしました。

2011 年３月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）によって、原発事故を受けた住民等の避難起因とする急病、体調不良による死傷。特に子供たちへの配慮を怠ってはならないでしょ。

創世記連続講解（17）

尹宗銀 牧師
（横浜教会名誉牧師）

創世記 33 章

創世記 33 章の総主題は、「ヤコブがエサウと和解する」である。

①1 - 7 節：ヤコブとエサウが互いに対面する。

②8 -11 節：贈り物に対する兄弟間の好意。

③ 12-17 節：エサウとヤコブは離別を告げる。

④ 18-20 節：ヤコブがシケム〔Shechem〕に移住する。

本章の記事は、B.C.1739 年頃、ヤコブとエサウが和平のム - ドのうちに相逢する内容である。しかしながら、ヤコブは、いまだに偽りとへつらい〔flattery〕の根性が残っていた。２節の順序のように、愛の差別として愛するものを一番後ろに置いているのは、もしもの場合、前方の者が襲撃されれば、後方の者は逃避しようとする準備の工作である。顔では兄を尊敬しているかのように見せながらも、いまだに兄を信用することが出来なかったようである。

道中、ヤコブは、兄のもとに着くまでに七度地に平伏したのは、絶対的な謙遜と長者に対する最敬礼である。兄の怨む心を晴らす心情は良いが、罪に対する責任を痛感したのも事実である。10 節に、「兄上のお顔は、わたしには神の御顔のように見えます」は、表面上立派に聞こえるが、前後関係からへつらいのように聞こえる。

ヤコブの兄との約束のセイル〔Seir〕で会合を、方向を変えてシケム〔Shechem〕に行ったのは欺瞞であり、いまだにエサウを信じなかった態度である。彼は、兄エサウが贈り物を受け取れば、恨みを晴らした証拠であり、贈り物を受け取れないと恨みを晴らしてない証拠だと判断してしきりに勧めたので、エサウは受け取った。

エサウが保護兵を何人か残して置くようにしようかと言う好意に応じないのは、ヤコブがエサウの心を信用しなかった証拠である。ヤコブの祈りを通して、神は守られたので、エサウの心は晴れて、旧い恨みを忘れて赦す態度で接近しようとするが、ヤコブは懐疑心を抱いて信用しなかった。エサウは清廉な人であった。しかし救いは人の性質如何によるのでなく、信仰如何によるのである。ヤコブが選ばれたのは彼の行為ではなく、信仰であるのが分る。

本章の中で彼の信仰生活の失敗を見ることができる。32 章で『お前の名はもうヤコブではなく、これからはイスラエルと呼ばれる』と言われたのに、本章でヤコブと呼ばれるのは何故であろうか。彼はベテル（神の家）〔Bethel〕に立ち帰って神の約束（28:15）を果たすのが当然であったが、牧畜の便宜上シケムへ移ったのは信仰の路線から脱線したとも言える。彼が上シケムで祭壇を築いていけにえを献げたのは（半服従的）良心の慰安の礼拝に過ぎない。ベテルに行くべきことを自己中心から方向変更したは依然として実利主義の所以である。

＜KCCJ・CCJ＞　宣教協力 15周年記念集会、in 名古屋教会

去る11月23日（金）11時から16時まで、名古屋教会で在日大韓基督教会（KCCJ）・日本キリスト教会（CCJ）との宣教協約15周年記念集会が開催された。主題は、「教会の宣教課題としての隣人」（교회 선교과제로서의 이웃、エフェソ2：14～22）で、副主題は、「平和の福音に生きて」（평화의 복음으로 살아서）であった。

第1部は、日本キリスト教会大会議長である高松牧人牧師の司会で礼拝が行われた。井上一雄牧師（CCJ前大会議長）の祈りをした後、エフェソの信徒への手紙2：14～22の聖書のみ言葉を近畿中会議長持田克己牧師が日本語で、中部地方会副会長金仁果牧師が韓国語で朗読した。その後、KCCJ／CCJの合同聖歌隊が「キリストの前に」、「君は大きく自由を叫べ：너는 크게 자유를 외쳐라」という讃美をチャンゴ(장구)を用いて歌うことで素晴らしい感動を与えた。この記念集会の意義と隣人とは何かを訴え、共に共有することの出来る感動と感謝の讃美であった。

そして総会長金武士牧師が「イエスが見つめたもの」と題して説教をした。金総会長は、「お互いの言語を知らなくても交わることが大切であり、礼拝に来た時に、前から見る十字架と礼拝後に家に帰る時の十字架の恵みによって生きて行くべきである」と訴えた。その後、金性済牧師（中部地方会会長）の司式によって聖餐式が執り行われた。さらに、東日本大震災の被災地にために献金がなされ、200名以上の参加者から323,210円（事後報告）の献金が捧げられた。

最後に、金武士総会長の祝祷をもって礼拝が終わった。第2部は、名古屋教会の6階のホールで、朴太元牧師（豊橋教会）の司会で愛餐会形式で行われた。名古屋教会の女子宣教会教会員たちの奉仕と日本キリスト教会の各教会からの持ち寄り料理によって、美味しくて豊かな愛餐会であった。

引き続き、礼拝堂に戻って、名古屋教会の朴仙姫、朴桂淳執事がそれぞれボディ・ワーシップを披露することにより、3部の交流会が行われた。両教会の牧師による各教会の紹介を通して隣人を詳しく知って上で、金性済牧師が「KCCJ／CCJ宣教協約締結15周年を迎え」、五十嵐喜和牧師が「教会の宣教課題としての隣人－平和の福音に生きて」と題して発題をした。

その後、全体協議をしてから、八田牧人牧師と洪性完牧師（総幹事）がそれぞれ閉会の挨拶をした。

最後に、趙重來牧師（副総会長、船橋教会）が閉会の祈りをすることにより、両教会の宣教締結15周年記念の諸行事がすべて終了した。これからも隣人との宣教協力と具体的な宣教の実践に期待する。

（報告：編集部）

＜西部地方会＞　信徒部主催 第10回　信徒の集い開催

去る11月25日（主日）神戸教会堂に於いて、西部地方教会信徒部主催による、第10回信徒の集いが、10教会の参加により開催された。

第1部は、壮年会主体の礼拝で始まり、梁榮友牧師による「聖霊による一致」（エペソ4：4～6）と題した説教があった。続いて第2部に移り、各教会の紹介及び活動報告の後、「主にあって一つになろう」のテーマで、朴斗熙牧師の進行による賛美と祈りがあり、全員が西部地方会の為、各教会の為、壮年会の為、女性会の為、青年会の為に一人一人が心からの賛美と祈りを捧げた。

その後、青年会の特別賛美があり、愛餐会がもたれ、他の教会の信徒たちと共に、食事をいただきながら心も満たされた信徒の集いであった。

（報告：賓景淑、西部地方教会女性連合会書記）

1963年9月20日第3種郵便物許可（毎月一日発行）

福音新聞
THE GOSPEL NEWS

在日大韓基督教会
宣教100～110周年標語
감사의 백년, 소망의 백년
感謝の百年、希望の百年
（데살로니가전서 5:18）

2013年1月1日（火） 第715号
発行所 福音新聞社（1部100円）
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
電話03（3202）5398
発行人 / 金武士・編集人 / 洪性完
fukuinshinbun@kccj.jp（福音新聞）
info@kccj.jp（総会事務局）

2013年　新年説教

心の余白（ルカによる福音書 1:5-25）

金武士牧師（総会長、大阪西成教会）

絵筆を口にくわえて絵や詩を書くクリスチャン画家の、星野富弘さんの一枚の絵があります。その絵に添えられた言葉です。「こころの中に、ポッカリ空いた部屋がある。そこで私は言葉にも形にもならないものたちと静かに向き合う。詩の行間のように、日本画の余白のように。なんにもないままに、いつまでも残しておきたい、大切な私の部屋。」

この「こころの中に、ポッカリ空いた部屋」のことは、昔から、神を信じる聖徒たちに語り伝えられてきました。アウグスティヌスは、「心の中の穴」について、この世の何ものをもってしても埋めることができず、神のみがそこを満たすことができ、そのとき、人は空しさから救われ、真の平安と喜びに満たされる、と語っています。

遠い昔の話ではありません。今、先進国といわれる国々で多くの人々がウツ病を始めとする心の病におかされています。また、神経や精神の病だけでない、まさに魂の病にかかり、苦しんでいます。体も心も健康なのに、まさに魂が病み、生き甲斐も感じられず、空しさにとらわれ、追い込まれています。現代はまさに、目に見える形で、魂の危機が叫ばれています。「イエスはお答えになった。『人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』と書いてある。」（マタイ 4:4）

何か他のもので埋めようとすれば埋めてしまえると思うかも知れない。しかし、それではすまないのです。問題は、神が私たちの人生に介入されるとき、すなわち、神の口からの一つのことばが、私たちの心に向かって発せられたとき、それが入る心のスキマは残されているだろうか？

心の余白、空いたところ・・・思い浮かんでくる場面があります。最初のクリスマスの風景。

みすぼらしい家畜小屋にマリアと大工のヨセフ、赤ん坊のイエス様と家畜たち、それに羊飼いたちがたたずんでいる。これは昔から世界中の人々の心に美しい風景として伝えられてきたものであります。ところで、この場面に、もう一つの事実と教訓があることを忘れてはなりません。「初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。」（ルカ 2:7）

「言は世にあった。世は言によって成ったが、世は言を認めなかった。言は、自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかった。」（ヨハネ 1:10-11）

聖書の民イスラエルが、神のことばであるキリストをどうして受け入れなかったのでしょうか。神のことばである救い主の来臨が、自分たちが考えているのと違った方角から、違った方法で、違った形でやって来たので、受け入れを拒み、排除したということでしょう。しかし、受け入れた人々もいました。思いもかけぬ、想定外の形であったにもかかわらず、その人々の心の余白が、そのことばを受け入れたからであります。新しい年を迎え、これからの一年、私たちの心に、神からのみことばが発せられるとき、それを受け止めることのできる心の余白を持ちたいと思うのであります。

旧約最後の預言者マラキの後、400年間、神の預言者は一切現れず、神は沈黙される。しかし、やがて時が満ち、神の子キリストを世に指し示す使者として、洗礼者ヨハネが登場する。今日の聖句は、洗礼者ヨハネの誕生のいきさつを記す、その父、祭司ザカリアと天使との間の対話の場面であります。「ザカリアは祈り、人々も祈る。何を？自分たちの幸せを。救い主が来られ神の国を完成してくださることを。」（ルカ 1:8-10）

その祈りに対して、救い主キリストの先駆者の出現が成就する。（ルカ 1:11-17）ところが、ザカリアは、自分が長い間、祈ってきたことが願い以上に聞かれるという、神のことばを聞いたとき、それを素直に受け入れなかった。そしてしるしを求めています。（ルカ 1:18）

使徒パウロが後に嘆いたように、これは、ユダヤ教の習慣ではありました。しかし、このできごとの後に、イエスの母マリアに起こったことと比べると、神のことばをそのまま受け入れられなくなっていたザカリアの心が浮き彫りされます。イエスの母マリアは天使からのメッセージに衝撃を受けながらも、「お言葉どおり、この身になりますように」と、神のことばが自分の身に宿るのを歓迎しました。それに対して、ザカリアは、いつしか神のことばを受け入れる心の空間をすりへらしてしまっていました。（ルカ 1:5-7）

旧約の伝統に立つ、本人たちにとっての祝福とは、地上で長く生きながら、子孫を通して神の地境を守り、子孫がメシアを見ること・・・出だしから、つまずいてしまいました。律法を落ち度なく守っているのに・・・。それによって祝福されるべきであったのに、その祝福の実である男の子がなかった。（２面に→）